

本資料及び資料に含まれる第三者著作物を再使用する場合、
利用者は、それぞれの著作権者より使用許諾を得なくてはなりません。

思索と言語

言葉を科学する：人間の再発見

奥 聡

Day 14: 「子どもの言語獲得」の再発見 (2)

1. 実験の具体例(2): act-out task
2. 実験の具体例(3): truth-value judgment task
3. 実験の具体例(4): elicited production task
4. 失語症と養育遺棄児

Pre-class Word 14

(B)

(C) 次のうち先週の授業で、論じたことに当てはまらないものを2つ

0. 宿題と質問から

- (1) 「実験」ということば : positive? negative?
- (2) 養育放棄事例について
- (3) goedと言った子ども。周りの大人が訂正しなくても、自然に訂正される。How
・子どもがまれにする文法的な誤りが、必ずしも訂正されないとすれば、どのよ
うな仮定を経てその訂正が行われるのでしょうか?
- (4) a. **The Principle of Contrast**
Every two forms contrast in meaning.
(Saxton, M. 1997. The Contrast Theory of Negative Evidence,
Journal of Child Language 24, 139-61.)
b. **Blocking Principle (or Uniqueness Principle)**
The presence of irregular form blocks the rule-governed one.
- (5) 父 : Where did Mommy go?
子 : Mommy _____ to the store.
- (6) “My rule tells me to fill in the slot with “goed”, but nobody else has said so, but
rather they say “went”.”
- (7) **CW14-1** : 臨界期の存在理由 (人間の母語獲得の場合)

1. 実験の具体例(2): act-out task

- 無意味語を使用する実験ばかりではありません -

- (8) 宿題 HW13(A)のテキストで紹介されている実験 : act-out task
「Midi をとって」
- (9) まだはっきり話せない子どもでも act out できる子なら参加できる
しかし
- (10) プラスチックのコップとお皿を置いて
「コップを持ってきて」と頼む
- (12) a. 8割の子どもが常にコップを持ってきた、としよう
b. このことからその8割の子どもは、「お皿」を「コップ」とは普通呼ばないということを知っている、と結論付けられるか？
- (13) act-out task はある言語表現が
a. どのような意味解釈が可能であるかを子どもが知っているかどうかを確認できる
b. ある意味解釈が不可能であることを子どもが知っているかどうかは確認できない
- (14) **CW14-2** 実験の例(ビデオ): [05:27](When?)
[10:36](What do you think he ate?), [23:29] (alive?)



1.2 子どもに直接聞く？

- (15) 「犬は生きていますか」
「蛇は生きていますか」
「車は生きていますか」
- (16) 赤い車とトラック
「トラックは赤ですか？赤以外の色でもいいですか？」
- (17) 子どもの自然な言語知識を引き出すには、直接聞くのは不向き
a. メタ言語的な質問は理解が難しい
b. 質問されてると分かると緊張する
緊張して自然な反応ができなくなる子
質問している大人（実験者）が喜ぶような答え方をしようとする子
c. 大人と同じ言語知識を身につけている子にとって、「どうしてそんな当たり前のことを聞くのだろう」と思い、何か別のことを答えなければならないのだろうか？とってしまう
「どの女の子も象さんに乗っている？」

2. 実験の具体例(3): truth-value judgment task

- (18) パペットや紙芝居（パソコン上の絵）を利用
- (19) その状況について何かを話すのは、別のパペット（実験助手が操作）
- (20) a. 子どもが3人馬に乗っている絵を、エルモ（パペット）と一緒に見る
b. エルモが「どの子もお馬さんに乗っているね」
c. 実験者が、子どもに聞く：
「エルモは絵をちゃんと見たかな？」
d. 子どもが「うん」と答えれば、「どの子も」の意味が分かっている
- (21) この方法のポイント
a. 「エルモは時々間違うので、教えてあげて」
b. 子どもは自分が試されているのではなく、エルモが試されていると理解
c. 自分は、大人のお手伝い
d. 緊張せずに、子どもの言語知識を自然に引き出せる
- (22) 女の子と象の絵
a. 子どもに直接聞くと、回答が不安定になる
「どの女の子も象さんに乗っている？」
b. エルモが言って、それが正しいかどうかを子どもに聞くと回答が安定
エルモ：「どの女の子も象さんに乗っているよ」
エルモ：「象さんに乗っていない女の子がいるよ」
エルモ：「女の子が乗っていない象さんがいるよ」
エルモ：「どの象さんにも女の子が乗っているよ」

3. 実験の具体例(4): elicited production task

- (23) 英語の yes/no 疑問文：構造依存規則による
- (24) The man who is eating sandwich is nice.
- (25) a. **Is** the man who is eating sandwich ___ nice?

- b. * **Is** the man who ___ eating sandwich is nice?

- (26) 3歳・5歳の子ども（30人）がこのような複雑な yes/no 疑問文を作れるか？

- (27) a. CHILDES データベースをいくら見ても出てこない
(就学前の子どもの自然発話には、(25a)のような複雑なタイプの文は出てこない)
- b. 「yes/no 疑問文作ってみて」と直接聞いても子どもは混乱
- c. 直前の大人の発話のコピーではないようにして、子どもに自然に言わせるには？
- d. さらに(17)で述べたような不自然な状態はできるだけ避ける
- (28) Crain and Nakayama の方法
- a. エルモは(24)が真か偽かを知っている
- b. エルモは恥ずかしがり屋で、大人の質問には答えてくれない
- c. 子どもが聞くと答えてくれる
- d. 子どもに以下(29)のように頼む
- (29) Ask Elmo if the man who is eating sandwich is nice.
- (30) 多くの子が(25a)を発話する
(25a)をいわない子もいるが、(25b)をいう子は1人もいない
- (31) 「文の前から数えて最初の is を文頭に」という規則を持つ子はいない
Crain, S. and M. Nakayama (1987) Structure Dependence in Grammar Formation, *Language* 63-3, 522-43.

4. 失語症と養育遺棄児

- (32) a. 脳卒中による失語症の患者：受動文の理解が困難に
- b. 養育放棄の G と F：能動文=受動文の書き換えが苦手
- (33) 機能語（文法の重要な要）に障害が出るのでは？
- (34) a. ネコが ネズミを おいかけた
- b. ネコが ~~を~~ ネズミを ~~を~~ おいかけ~~た~~
- (35) a. ネコが ネズミに おいかけられた
- b. ネコが ~~が~~ ネズミに ~~に~~ おいかけ ~~られ~~ ~~た~~

5. まとめ

1. 実験の具体例(2): act-out task
2. 実験の具体例(3): truth-value judgment task
3. 実験の具体例(4): elicited production task
4. 失語症と養育遺棄児

*先週休んだ人：Term Paper の handout をもらいに来て。

*教授資料（配布しない）

- (14) a. いつ男の子はケガをしたと言いましたか？
b. いつ男の子はどのようにしてケガをしたのか言いましたか？